

# 協働の事例集

～自発の地域づくりさがを目指して～

佐賀県

令和6年（2024年）11月

# 目 次

## ■協働の事例

- ・災害時における県とCSOとの協働による被災者支援……………1  
【佐賀県×一般社団法人佐賀災害支援プラットフォーム(SPF)】
- ・被災者支援活動を行うCSOの資金調達支援……………2  
【公益社団法人 Civic Force】
- ・災害救助犬の訓練施設の建設、活動支援……………3  
【認定NPO法人 日本レスキュー協会】
- ・コロナ禍での災害時における行政、社会福祉協議会、中間支援組織の  
三者の連携による被災者支援……………4  
【佐賀県×市町社会福祉協議会×一般社団法人佐賀災害支援プラットフォーム(SPF)】
- ・災害時における企業からのボランティア活動への支援……………5  
【佐賀県×市町社会福祉協議会×佐賀オールトヨタ】
- ・行政とCSOの協働でのウクライナからの避難者の受け入れ・生活支援……………6  
【SAGA UkeireNetwork】
- ・CSO×企業×行政をつなぐ場所「行政の窓口」……………7  
【佐賀県×特定非営利活動法人佐賀県CSO推進機構】
- ・中間支援組織の連携強化で必要な情報を各地域で発信……………8  
【佐賀県×中間支援組織】
- ・さがCSOポータルで情報発信・情報収集……………9  
【佐賀県×CSO×企業】

・「ヒト・コト・モノ」をつなぐ場所	10
【特定非営利活動法人とす市民活動ネットワーク×大和リース株式会社】	
・郵便集配車両を活用した地域の見守り活動の連携	11
【佐賀県×日本郵便株式会社】	
・スポーツ教室を通じた健全育成・健康増進連携	12
【佐賀県×日本生命保険相互会社】	
・佐賀県の安全・安心とSSP構想の実現のための協働	13
【佐賀県×あいおいニッセイ同和損保株式会社】	
・「つらいが言えない親子につながる」	14
【一般社団法人こども宅食応援団】	
・「佐賀発の実践的グローバル人財育成事業」	15
【認定NPO法人テラ・ルネッサンス】	
・「外国人住民のお困りごとを解決するネットワーク構築」	16
【認定NPO法人地球市民の会】	
・難病治療のため入院する子どもに付き添う家族を元気にしたい!	17
【よかことしよう会】	
・ユニバーサルデザイン化促進のための無料相談窓口	18
【佐賀嬉野バリアフリースペースセンター】	

・バリアフリー化や子どもの受入環境整備に対する補助	19
【さがすたいる倶楽部会員】	
・当事者と交流しながらUDを学ぶ出前講座	20
【当事者 × 県内の学校等】	
・当事者と事業者が相互理解を深める実地研修	21
【当事者 × さがすたいる倶楽部会員】	
・多様な方々が交流できるイベント	22
【当事者 × 佐賀県民】	
・佐賀県から一型糖尿病根絶に向けて!	23
【認定特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク】	
・伝統工芸事業者支援でつくり手とつかい手をつなぐ	24
【認定NPO法人ピースウィンズ・ジャパン】	
・小学生から社会人まで!地域の未来を担う人材の育成	25
【特定非営利活動法人鳳雛塾】	
・一人ひとりがおもしろい未来を描ける社会を目指して	26
【特定非営利活動法人灯す屋】	
・玄海灘の豊かな海と漁業を後世に!	27
【特定非営利活動法人浜一街交流ネット唐津】	

・県内CSOと誘致CSOとの交流でさらなる地域課題の解決へ	28
【一般社団法人おもやい×公益社団法人Civic Force】	
・入院中のお子さんに付き添うご家族にお弁当を!	29
【特定非営利活動法人キープ・ママ・スマイリング】	
・知ることから始める国際支援の一步	31
【認定NPO法人難民を助ける会 AAR Japan】	
・基山町の「まち・ひと・しごと」をつなげる場に	32
【基山フューチャーセンターラボ】	
・持続可能な地域・社会のために魅力ある学校づくりを	33
【一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム】	
・企業×企業の協働による地域の熱中症対策の強化	34
【佐賀県×大塚製薬株式会社×日本郵便株式会社】	

※事例に掲載している団体名、掲載内容等は取材当時のものです。

## ■協働の形態

この事例集では、協働の形態を以下のとおり分類し、左上に記載しています。

### ・事業協力

行政（県・市町）からの資金提供を受けることなく、お互いの特性を活かした役割分担を行い、継続的な関係のもとで互いに協力し事業を実施するもの。

### ・協働型委託

企画段階からCSOと行政（県・市町）とが協議しながら進めるもの。財政効率を度外視するものではないが、事業プロセスを重視した委託。

### ・提案型協働創出事業

CSO（や企業）から公共事業の担い手としての提案を募り、県や市町と対話を重ねて公共サービスの担い手の多様化を図ることにより、公共サービスの質の向上や住民満足度の向上、併せて経費の削減や業務の効率化、ひいてはCSO（や企業）の活性化、住民自治の実現を図る。

### ・補助

CSOが主体的に実施する事業を補助するもの。公益性が高い事業であって、より充実できる場合に実施する。行政が対応しにくい先駆的な事業等を、CSOと行政（県・市町）がそれぞれの目的達成のための手段として実施する。

### ・ふるさと納税

寄附者が応援したい県内のCSOを指定して寄附をし、県は寄附金を指定されたCSOに交付する。ふるさと納税を活用することで、CSOが行う自主的、自発的な活動のための資金調達を可能にする。

### ・企業版ふるさと納税

県内CSOが実施する地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）を活用した地域課題解決につながる事業を公募し、県の審査を通じて、県として支援する事業を決定する。採択事業の実施主体のCSOが、寄附金を活用して事業を実施し、県内CSOの活動の活性化や地域課題解決力の向上を図る。



# 災害時における県とCSOとの協働による被災者支援

佐賀県×一般社団法人佐賀災害支援プラットフォーム(SPF)



県との連携・協力に関する協定締結式

2011年の東日本大震災をきっかけに佐賀県内のCSOを中心とするネットワーク団体(佐賀から元気を送ろうキャンペーン)で主に県外の支援を実施していた。しかしながら昨今の気候変動により災害発生リスクが佐賀でも高まりつつあることから、2018年に現在の団体名に変更し、翌年に佐賀県とも協定を締結した。そして、同年に令和元年の大雨災害が発生し、武雄市、大町町を中心とした支援を開始した。コロナが終息していない状況の中では、県内の人材で県内の人たちを支える役割としてはこれまで以上に必要となっている。災害が起きても佐賀のメンバーで解決でき、安心感のある県となれるよう尽力していきたい。

【佐賀災害支援プラットフォーム(SPF)】



災害時、災害対策本部にSPFも出席



葉隠会議でCSOへの情報共有

## 協働の概要

県:災害対策本部の開催  
被災状況の情報提供

(一社)佐賀災害支援プラットフォーム:  
情報共有会議(葉隠会議)の開催による情報のプラットフォーム化。  
CSOへの情報提供

## 団体等からのコメント

連携することで連携先との綿密な合意形成など大変な部分もありますが、被災者のニーズの多角化に伴い、連携なしには災害対応が難しくなっています。連携は「大変」ということでなく、多様なニーズへの対応により被災者に少しでも早く支援が届くこと、ひいては、自分たちのできる範囲を超えることなく、活動(支援)に注力できることかなと思います。

佐賀災害支援プラットフォーム  
共同代表 岩永清邦

# 被災者支援活動を行うCSOの資金調達支援

公益社団法人 Civic Force



2016年熊本地震の際の被災者支援の様子

発災直後にふるさと納税の寄付受付を開始できるので、被災地に迅速に支援を届けることができます。

(公社) Civic Force



2017年九州北部豪雨の際の捜索救助活動の様子



2021年佐賀豪雨の際の被災者支援の様子

## 協働の概要

公益社団法人 Civic Force：  
佐賀県の施策であるCSO誘致として平成28年に佐賀県に進出。災害時におけるきめ細やかな被災者支援を行っている。佐賀県での発災時には、佐賀県が行うふるさと納税制度を活用したクラウドファンディングによる資金調達の支援をCSOに行ったことで、災害時の迅速な被災者支援に結びついている。

## 団体等からのコメント

寄付者の皆さまの被災地のために何かしたいという想いを、いち早く必要としている方に届けられるよう、尽力してまいります。

(公社) Civic Force  
代表理事 根木 佳織





## 災害救助犬の訓練施設の建設、活動支援

認定NPO法人 日本レスキュー協会



ふるさと納税を活用して建設された施設では、災害救助犬などの訓練が行われる。

広大な土地で犬がストレスなく訓練出来る施設です。様々な訓練作業にチャレンジすることも出来ます。犬の手入れをする設備も完備しているので、思い切り訓練をして汚れても大丈夫です。

犬たちの生き活きとした姿を間近に見ることができます。

井本夫妻(災害救助犬訓練歴20年)



「MORE WAN」



### 協働の概要

認定NPO法人 日本レスキュー協会：  
佐賀県の施策であるCSO誘致として平成30年に佐賀県に進出。佐賀県のふるさと納税制度を活用した資金調達を行い、令和4年4月に大町町に災害救助犬及びセラピードッグの訓練施設「MORE WAN」を建設した。今後の災害発生時には、行政、CSOなどとの連携・協働による災害支援の拠点となることを目指している。

### 団体等からのコメント

「MORE WAN」建設にあたり、多くの方々の想いをご支援を賜りました。

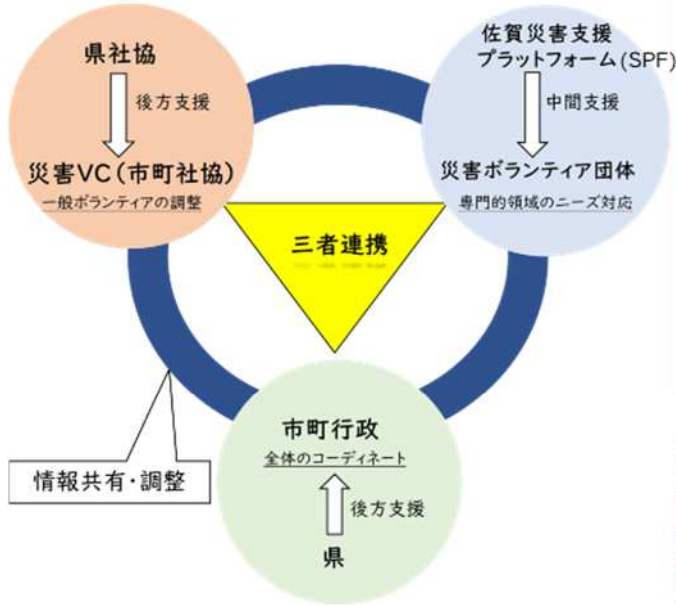
これから私たちの主な活動である災害支援を通じて公益に寄与することはもちろん、地域住民の皆様にも寄り添った身近な団体になれるよう今後も頑張りたいと思います。

引き続き、皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

認定NPO法人 日本レスキュー協会  
清水 春花



佐賀県における三者連携体制



佐賀災害支援プラットフォーム (SPF) といった県域で中間支援を担うCSOが県内に存在することは、地域としてとても心強いです。行政、社協、CSOの三者連携といっても、地域と県域での連携は異なります。地域での活動は資源に余裕がない中、各市町(行政)、市町社協、CSOとの連携を進めることで精一杯です。しかし、災害という大きな問題が発生した時には、地域だけの力では対処することができません。だからこそ地域にない社会資源との繋がりを持っておく必要がありますが、それを令和3年度の災害時には県域で三者が連携し、担ってくれる事で、地域としてもスムーズに支援を呼びかけ、受け入れができたと思います。

【大町町(地域おこし協力隊) 公門さん】



災害時、三者で連絡室を設置し、連携した対応を行った。

協働の概要

【平時】

県×県社会福祉協議会×佐賀災害支援プラットフォーム (SPF):  
コロナ禍においても、必要な感染防止対策をとりながらボランティアによる支援を受け入れられる体制の構築を進めた。

【コロナ禍における災害時】

県・市町社会福祉協議会による災害ボランティアセンター:  
地域を限定(県内のみ)してボランティアを募集。  
ICTを活用したボランティアの事前申し込み制をとり、密を防ぎながらボランティアの効率的な調整を行った。

佐賀災害支援プラットフォーム (SPF):  
専門的なスキルやノウハウをもつボランティアは、県内だけでは不足することが想定されたため、「域外への支援要請のガイドライン」を作成し、専用の受け入れ窓口を設け、感染防止対策を講じながら県外からの専門的なスキルをもつボランティア (CSO) の受け入れ調整を行った。

団体等からのコメント

【佐賀県社会福祉協議会】

災害時に社協(災害ボランティアセンター)だけではできないことには限界があります。そのような中、被災者支援に大きな力となっていたのは、県やSPFに繋いでいただいた県内外の団体・企業や行政の方々でした。平時のうちに、県やSPFと顔の見える関係づくりや活動に際しての目線合わせ等がしっかりとできていたことが、県域でのスムーズな「支援の繋ぎ」を実現できた大きな理由だと感謝しています。

【(一社)佐賀災害支援プラットフォーム】

改めて、佐賀の強みは多様な団体が連携できることだと思います。  
連携を通して、行政や社協より正確な情報を得ることで現場に混乱なく、支援団体と被災地のマッチングもスムーズにできました。  
災害時にはよりいい連携ができるように平時からのコミュニケーションの重要性を実感しています。



## 災害時における企業からのボランティア活動への支援

佐賀県×市町社会福祉協議会×佐賀県オールトヨタ



### 支援対象者の声

ハイエースは、武雄市災害ボランティアセンターの活動の中で、ボランティアの送迎に主に使用させていただきました。多くの人数が乗ることができ、また、荷室も広いため人と一緒に活動に必要な資材も運ぶことができ効率よく運行することができました。災害時に自らでハイエース等の車両を確保することが難しい中、佐賀オールトヨタ様のご協力があり大変ありがたく、本当に助かりました。ありがとうございました。

【武雄市社会福祉協議会】

災害ボランティアセンターから被災家屋までのボランティアの移動などに提供車両が活用された



### 団体等からのコメント

被災された方々の生活復旧支援のための災害ボランティア活動には、人と活動に必要な資機材等を活動場所まで一緒に運ぶことができる車両が必要不可欠です。令和元年・3年と、県を通じて発災後すぐに車両の提供にご協力いただいたため、本会から県内各地の災害ボランティアセンターに配車し、スムーズに活動を開始することができました。

心から感謝しています。【佐賀県社協】

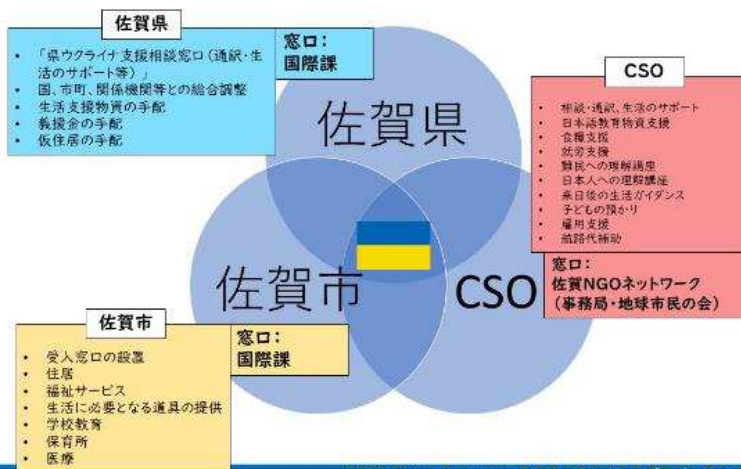
### 協働の概要

- ・佐賀県と佐賀県オールトヨタは平成30年10月、包括連携協定を締結。連携による様々な地域貢献活動を実施。
- ・佐賀県オールトヨタは、令和元年、令和3年の佐賀豪雨災害時、県を通じて佐賀県社会福祉協議会に対してボランティア活動に必要な車両を提供。

近年、全国各地で自然災害が頻発しており、有事に備えることが、喫緊の課題となっています。佐賀県オールトヨタはそうした際に、少しでも県民の皆様のお役に立ちたいと佐賀県様と連携して災害支援活動を行っております。令和元年・令和3年の大雨洪水災害時には輸送車両・給電車両を提供させて頂きました。佐賀県オールトヨタは、私たちに出来る事を一体となって考え、地域の皆様の安全・安心の一助となれるよう、今後も努めてまいります。

【佐賀県オールトヨタ】

SAGA Ukeire Network ~ウクライナひまわりプロジェクト~



支援対象者の声

この素敵なまちでの生活の機会をくださって、ありがとうございます。避難したウクライナ人を支援してくれて非常に感謝しています。佐賀の人たち、親切をありがとうございます。



協働の概要

佐賀県はCSO誘致により進出したCSOがウクライナ周辺国などでも避難民支援の活動しており、また多文化共生に取り組むCSOもあったことから、ワンストップでウクライナ避難民を受け入れられないか、佐賀NGOネットワークを中心に協議。佐賀県や佐賀市も避難民受け入れを表明されたことから、官民連携組織「SAGA Ukeire Network~ウクライナひまわりプロジェクト~」を全国に先駆けて立ち上げた。全国でも珍しい募集フォームを公開し、応募者とのオンライン面談、ビザや航空券の手配から、住居や家具、家電の支援、入国後の日本語教育や生活サポートに至るまで、佐賀県、佐賀市、CSOが連携しながら、避難民の受け入れを続けている。

ウクライナひまわりプロジェクトメンバー  
NPO法人地球市民の会からのコメント

2022年2月のウクライナ危機発生直後から佐賀県とは避難民受け入れの可能性について協議しており、県と市が受け入れ表明をされてから「それぞれで動くよりも、官民連携で動きませんか」という提案したのは「自然の流れ」でした。今回のスムーズな連携の背景にあるのは、災害支援で官民連携してきた実績。さらにはCSOの国際協力や多文化共生の知見を活かすことで、切れ目のない支援を実現できています。避難民受け入れの「佐賀モデル」として、全国のCSOや自治体から注目いただいています。



# CSO×企業×行政をつなぐ場所「行政の窓口」

佐賀県×特定非営利活動法人佐賀県CSO推進機構



## 支援対象者の声

こんな場所があるとは知りませんでした。執務室に入るのは勇気がいるので助かりました。

丁寧に説明していただきありがとうございました。

要望書を出す所属に連絡を取ってくださりありがとうございました。



相談対応の様子



窓口相談対応の様子

## 協働の概要

- ・県民総合相談
- ・情報提供窓口
- ・関係所属や県内のCSO等へおつなぎ
- ・県民の皆さまからの県政に関する相談や女性相談
- ・NPOに関する相談
- ・県の各種行政資料などの備え付け
- ・情報の提供

## 団体等からのコメント

### 【NPO法人佐賀県CSO推進機構】

平成19年に当法人からの提案を県に受けてもらい、担当課と「行政の窓口」の協働を進めることができました。わたしたちは「あなたに代わって動きます。」～あせかき・せわやき・きばたらき～をモットーにこれからも県民サービスの向上を図るとともに県民協働をすすめていきます。

### 【佐賀県広報広聴課】

行政の窓口は、県と県民をつなぐ架け橋として、柔軟な対応と各担当課とのスムーズな連携で、県民の皆様からご好評をいただいています。これからも佐賀県CSO推進機構と連携を密にし、県民の皆様へ寄り添った対応をしてまいります。

# 中間支援組織の連携強化で必要な情報を各地域で発信 佐賀県×中間支援組織



集合写真



県民協働指針意見交換の様子



中間支援組織の研修会の様子



中間支援組織現地視察の様子

## 協働の概要

- ・各地区のCSO・企業・行政等への情報発信
- ・県内中間支援組織の活動状況の情報収集
- ・県内ネットワークの構築
- ・災害時にも活かせる横の連携強化のための研修会
- ・共通課題などの意見交換
- ・分野の違う団体との情報交換
- ・中間支援組織への現地視察

## 団体等からのコメント

### 【中間支援組織】

- ・他組織の情報や研修で学んだ内容について、地域のCSOへ情報発信をすることができた。
- ・県内中間支援組織やCSOと防災・減災について考え実践していきたい。

### 【佐賀県県民協働課】

中間支援組織の連携強化をすることで、共通課題などの情報交換を行い、各地域の課題解決に繋がっている。

今後も中間支援組織の協力を得ながら、県内のCSOや企業との協働の推進につなげたい。



# さがCSOポータルで情報発信・情報収集 佐賀県×CSO×企業

**さがCSOポータル**

さがCSOポータルは、佐賀県内のCSO情報を発信しています

さがCSOポータルでできること

CSOを知る

参加・応援する

CSOとは… NPO法人、市民活動・ボランティア団体、自治体、婦人会、老人会、PTA等の組織・団体の呼称です

団体検索

Facebook

ボランティア情報

支援・募集しています

さがCSOポータルとは

使われているお知らせ

イベント・講座・研修会情報

助成金情報

ボランティア情報

支援・募集しています

さがCSOポータル

検索

キーワードを入力してください

サイト内検索

イベント・講座・研修会に参加したい

助成金情報を調べたい

ボランティア情報を見つけたい

CSOを支援します  
CSOが募集しています

県内で活躍するCSOを探したい

さがCSOポータル

検索

<https://www.cso-portal.net/>

佐賀県内のCSOの皆さんは  
団体登録して情報を発信できます！

Facebook版も日々更新中

スマホでも見やすい！

CSOとは… Civil Society Organizations（市民社会組織）の略で、NPO法人、市民活動・ボランティア団体に限らず、自治会、婦人会、老人会、PTAといった組織・団体も含まれます。

## 協働の概要

### CSOの役割

- ・CSOデータベースに登録
- ・イベント・講座・研修会情報発信
- ・支援・募集情報発信
- ・ボランティア活動情報発信

### 県の役割

- ・ポータルの保守管理運営
- ・助成金情報掲載
- ・ボランティアコーディネート等
- ・CSOのお役立ち情報発信

## さがCSOポータル利用者の声

- ・県内のCSOと連携した事業を行う時に、ポータルで各団体の活動を検索することができ助かっています。
- ・データベース登録をすることで、ボランティアコーディネートや広報支援を受けることができ助かりました。

## 団体等からのコメント

・助成金情報、イベント情報を発信することで県内のCSOの活動がより活発になり、県民もCSO活動に取り組みやすくなればと思います。【県民協働課】



わくわくエンターテインメントふれあいステージ

支援対象者の声

歌やダンスを市民に向けて発表する場が出来て嬉しい

花の育て方など実践でき勉強になっている

商業施設内で健康相談など出来、今後も続けてほしい



グリーンサポーター養成事業



まちスポとすカフェ

協働の概要

○大和リースの役割

大和リース株式会社が管理する商業施設を提供して、市民活動を支援。

○とす市民活動ネットワークの役割

大和リースの商業施設を活用して下記の事業実施

- ・市民活動サポート事業
- ・人材育成
- ・居場所づくり「まちスポとすカフェ」の開催
- ・居場所コーディネーター養成講座
- ・読み聞かせシニアボランティア養成講座など

団体等からのコメント

【大和リース株式会社】

鳥栖市内のCSOによる活動を支援することで、地域コミュニティの活性化に繋がり安全・安心に暮らせるまちづくりに寄与できる事を目的に協働で事業の開催。

【認定NPO法人とす市民活動ネットワーク】

商業施設の中で活動出来ることで利便性を利用した集客と情報発信がたかまり、市民活動が活性化している。



【代表的な取組】



<交通事故防止ステッカー>



県内の全郵便局の車両に  
「交通事故防止ステッカー」貼付

【きっかけ】

包括連携協定を締結により、  
「協働」の枠組みができました!



<包括連携協定締結式(2019年5月13日)>

団体等からのコメント

【日本郵便株式会社 九州支社】

これまで、郵便局の車両に、交通事故防止ステッカーの貼付や、郵便局内に各種ポスター等を掲出する等、佐賀県様との「協働」に取り組んでまいりました。

これからも佐賀県様と「協働」を続けることで、地域の皆様に安心・安全な暮らしの実現や、地域社会の活性化及び県民サービスの向上などに貢献していきたいと考えています。

【県交通事故防止特別対策室】

県内の各郵便局の窓口や車両を活用しての広報啓発は、広く県民に交通事故の防止を呼びかけていただいておりますほか、職員の皆様による、子どもたちの見守り等大変心強く感じているところです。

これからも、日本郵便株式会社の皆様と協働し、佐賀県の一層の交通事故の防止に向け取り組んでいきたいと考えております。

協働の概要

日本郵便株式会社

- ・取組の日程調整
- ・県内の全郵便局の車両にステッカーを貼付
- ・職員へ交通安全、子どもたちの見守り等の連携協力の周知

佐賀県

- ・オリジナルステッカーの作成
- ・取組内容に関する県内へ広報周知



参加者の声

写真①「お尻の筋肉を使って走る」という話を聞いてよかった。「速く走る」ことはすべてのスポーツにつながるのので、いろんな走るコツをきけてうれしかった。

写真②「分かりやすい指導で自分の課題に気が付くことができた。目標は来年のインターハイ出場」と目を輝かせて話す高校生。

写真③「こんなに楽しくてわかりやすく教えてもらったことはなかった。今日はすごくよかった」と小学生。

写真① 2021年2月23日SAGAプラザ総合体育館 日本生命所属の桐生祥秀選手が実践するトレーニングメソッドをもとに「かけっこ教室」開催。講師は元陸上・短距離日本代表の小野原秀樹氏。



写真② (2022年7月2日三日月体育館。日本生命レッドエルフの監督と選手による高校生指導。

写真③ (2022年7月2日三日月体育館。小学生向けの卓球教室)

協働の概要

日本生命保険相互会社  
・スポーツ教室の企画・提案・運営  
(かけっこ、卓球、野球、バスケット)  
・所属する選手の派遣 等

佐賀県

・競技団体との調整  
・日程、会場等の各調整  
・広報

団体等からのコメント

【日本生命保険相互会社】

日本トップレベルの選手のプレーや練習方法を目の前で見てもらいながら教わるのがとてもよい経験になっている。SSP (SAGAスポーツピラミッド) 構想の指針に基づき、今後とも小学生向けに広くスポーツの楽しさを体験できる内容と、中高生への専門的な指導が行える内容のスポーツ教室を継続して開催したい。

【SAGAスポーツピラミッド推進グループ】

子どもたちがスポーツに出会い、競技の楽しみを発見できる体験会等を開催することで、子どもたちがスポーツに親しむ機会となっている。

今後も日本生命保険相互会社の協力を得ながら、SSP構想の推進につなげたい。



セーフティドライブコンテスト(2021年度表彰式)

セーフティドライブコンテスト  
(2021年度)参加者の声

専用の機器で安全運転を競うコンテストに参加しました。初めはフィードバックされるきめ細かいアドバイスに戸惑ったこともありましたが、慣れていくうちに、これまで以上に安全運転に配慮できるようになったと実感できました。

パラアスリートの訪問を  
受け入れてくださった学校の声

パラアスリートの身体能力の凄さを目の当たりにして感動しました。また車椅子で生活されている方が日常生活で困っていることや、健常者がお手伝いできることなどをお話しいただき、障害者と身近に接する機会のない生徒にとって貴重な体験となり、大きな学びがありました。



車いすバスケット 柳本選手  
(あいおいニッセイ同和損保所属)

協働の概要

【あいおいニッセイ同和損保】

- ①交通事故防止
  - ・セーフティドライブコンテスト実施
  - ・団体、企業等を通じて参加者募集
- ②SSP構想実現
  - ・弊社所属のパラアスリート、アスリートの派遣(学校訪問等)により体験授業を実施、共生社会実現を啓蒙
  - ・SAGA2024の周知

【佐賀県】

- ・コンテスト表彰式の開催
- ・コンテストを通じて得られた交通安全ハザードマップの市町等への提供

団体等からのコメント

【あいおいニッセイ同和損保】

弊社は地域密着、CSV×DXを経営の柱に掲げ、デジタルの力で地域課題の解決にお役に立ちたいと考えています。各部署のみなさまに多くの指導をいただきながら、全力で佐賀県の応援をしていきたいと考えております。今後ともよりよいパートナーシップの下、協働事業を進めていければと希望しています。

【県交通事故防止特別対策室】

今回のコンテストは、県民の方が楽しみながら安全運転を競うもので、交通安全に対して関心を持ち、安全運転に配慮した行動を促す良いきっかけになったと認識しております。今後も、県民の皆様の一層の交通安全に向け、協働事業を進めていきたいと考えております。



利用家庭からの声

「いつも、いろいろなお話を聞いていただき、また沢山お品物をいただきましてありがとうございます。  
さっそく娘のおやつにしたり、晩ごはんに使わせていただきました。シャンプーなども薄めて使っていたので、とてもありがたいです。親身になって話を聞いていただき、気持ちの部分も凄く楽になりました。本当にありがとうございました！」

様々な経験が少ない傾向にあるご家庭に  
本のギフトをお届けすることも



ご寄付いただいた物を持って会いに行きます  
(月に数回)



届いたお米をお母さん  
に変わって誇らしげに  
運ぶ子ども



ゆっくりと食卓を囲んで  
もらうために作るお弁当



お菓子や果物は贅沢な  
物。りんごに喜ぶ子ども

協働の概要

一般社団法人子ども宅食応援団:佐賀県内での子ども宅食事業の新規立ち上げ、継続支援を実施

団体等からのコメント

【一般社団法人子ども宅食応援団】

子どもの貧困は7人に一人。お腹いっぱいにご飯が食べれない、給食のない長期休みは痩せてしまう、学用品が買えない、習い事ができない、おやつを買えず友達を呼ぶことができない…。これは身近にある現実で、けっして他人事ではありません。また、こうしたご家庭は自ら助けてと言えない様々な障壁があり、これまでの申請型では繋がりにくく孤立した状況に陥りがちです。子ども宅食は、食品をきっかけにこのようなご家庭とつながり、関係性を築き、必要な支援につなげるサポートを目的とした訪問型の活動です。人とひととの温かさの残るここ佐賀県からこの取り組みを全国に広めていけるように今日も走り続けています。

【子ども宅食実施団体】

私達が子ども宅食の活動を通して繋がりをもっているご家庭の殆どの子どもには笑顔がありません。日々の生活に追われ、またその母親にも笑顔がないのです。また、写真もあまり持っていないようで訪問の際に写した写真をプリントして渡すと喜んでくれます。このようなご家庭に身近な存在と思ってもらうには定期的な訪問が必要で、子ども宅食応援団を通して届く寄付品は大変役立っています。

「佐賀発の実践的グローバル人財育成事業」

～SDGs (持続可能な開発) を推進し、佐賀と世界の未来を担う

グローバル人財の育成～ 認定NPO法人テラ・ルネッサンス



**対象者の声**  
 私が実践的グローバル人財育成事業を通して得られた学びは、その国の真実はその国の人間か、その国に訪れた人間にしかわからないということです。ウガンダ訪問の際、現地スタッフのトシャさんのスピーチで「私たちは決して貧しくなんかない!」という言葉聞いた時、その力強い声が胸に響き、このウガンダの人々には生きる強さや人としての温かさがあると肌で実感しました。統計やメディア上での情報だけに目を向けるのではなく、その国の人間の思いや肌に触れることで本当のその国の真実がわかるのだと気づきました。その体験から、本当の「貧困」というものは何なのか、過去の自分では考えられなかったであろう疑問を沢山見つけることができました。  
 東明館高等学校 探究コース3年 安平光



東明館高校探究コース1期生の社会課題解決講座の様子

ラグビー元日本代表 廣瀬俊朗さんによるリーダーシップ教育

ウガンダ訪問研修：KIBOU MATSURIの様子

**協働の概要**

認定NPO法人テラ・ルネッサンス：スタッフによる講義・ワークショップ。海外事業地と連携した「高校生による問題解決プログラム」・スタディーツアーの実施  
 東明館中学校・高等学校：教育の機会の提供

**団体等からのコメント**

【認定NPO法人テラ・ルネッサンス】

佐賀県内の教育機関(中学・高等学校)において、中学生・高校生を対象に、グローバルな着想をもって探究できる人財の育成を目指しています。未来を担う若者が、主体的に社会と関わって他者に貢献できる市民となれるよう、Project Based Learning(以下、PBL:問題解決型学習)の手法を取り入れて学びます。この取り組みを、佐賀県内の他の高校や大学などの教育機関にも広めていきたいと考えています。そして、将来的には日本全国、あるいは台湾や韓国などの東アジア、タイなどの東南アジアの国々の教育機関でも展開していきたいと思えます。

【東明館中学校・高等学校 探究コース創設者 山元祐輝さん】

今回の実践的グローバル人財育成事業の一環で、テラ・ルネッサンスと東明館高等学校探究コースとの協働プロジェクトを実施できたことはとても貴重な経験になったと感じています。探究コースでは、通常行われる教科・科目の学習ではなく、ウガンダ・カンボジアの支援を行うプロジェクトに対して様々な教科・科目をどう扱っていくか、活用をベースに学習を深めてきました。その中で、特に国際感覚や自律性を養うことができたと感じています。この事業をより拡大することで、当事者意識を持つ人が増え、より世界が平和に、そして協働できる人が増えると考えています。本当に素晴らしい機会をいただきありがとうございました。

# 「外国人住民のお困りごとを解決するネットワーク構築」 認定NPO法人地球市民の会



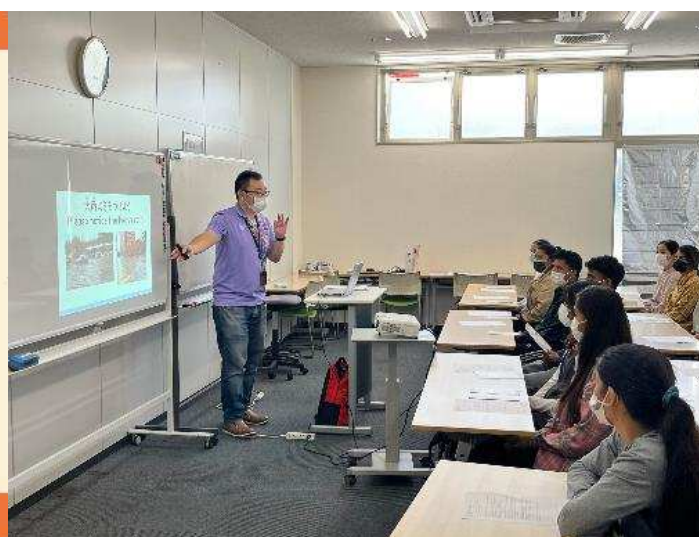
## 支援対象者の声

県内でのワクチン接種の情報やコロナ感染の更新情報をリアルタイムで知ることができ、県内のミャンマー人たちにシェアすることができています。コーディネーターで母国にいる家族を心配する在日ミャンマー人にオンライン相談会を開いて相談に乗ってくれたことは本当に助かりました。

**3 In case of a flood**  
In case of a flood  
Take pictures from the four points of the compass.  
Take pictures of the roads and the home appliances too.  
This picture is the proof of the damage.  
If the water gets in the house or the building gets damaged, take as many pictures as possible (be sure that you're safe). You may be able to get money from the insurance or you won't have to pay the tax. You will need the pictures for the procedure.  
**DO NOT GET INTO A SUBMERGED CAR!**  
There is a risk of getting electric shock. Avoid getting into submerged cars.  
You may get food for free.  
Various things may be distributed at evacuation shelters. You don't need to buy, but, the quantity is limited.  
Examples of things you can get:  
- water - instant noodles - packed rice  
- food in the bag - canned foods  
- pet supplies etc.

**4 After the flood**  
If the water got higher than the floor:  
To prevent rats/mice / flooring materials from getting moldy, you must remove them and lay dry the floor. For this you need someone with special tools, so use a specialist organization for help.  
Saga Prefectural Council of Social Welfare (Saga Pref. Disaster Volunteer Center)  
Phone: 0952-23-2145  
Mail: chiko@sagaken-shakyo.or.jp  
Things which can no longer be used  
Garbage generated after a disaster must be disposed as disaster wastes. Items that cannot be used even after washing or concrete scraps should be disposed at designated areas.  
Find out the phone numbers in your neighborhood:  
City Hall  
Community Center  
Embassy  
Consulate

**FLOOD CONTROL HANDBOOK**  
for Foreigners Living in Saga  
Saga has been visited by epidemics twice (disasters in 2019 and 2021). Be prepared in case of another heavy rain.  
Contacts in case of troubles regarding disaster  
You can communicate in your own language.  
Center for Multicultural Society in Saga  
Phone: 0952-22-7930  
HP: <https://www.spsra.or.jp/>  
Terra People Association  
Tel: 0952-24-3334  
Mail office: [tppa@terrapeople.or.jp](mailto:tppa@terrapeople.or.jp)  
IT: [chikyuu@terrapeople.or.jp](mailto:chikyuu@terrapeople.or.jp)  
Look for this sign (evacuation center / site) in your neighborhood.  
Name of the place:  
Authorized NPO Terra People Association



## 協働の概要

地球市民の会では、地域の国際化や国際協力に取り組んできた経験を活かし、外国人住民のコミュニティ化を進めてきた。タイ人グループのサワディー佐賀をはじめ、特に少数派のミャンマーやスリランカでもコミュニティ化を図り、自分たちで翻訳し、発信できるシステムづくりを進めてきた。

佐賀をはじめ、九州は災害も多く、外国人が農村部などに分かれて暮らす「散在地域」である一方で外国人対応ができる土業も少なく、相談窓口も少ないため、外国人のお困りごとに対応するため、支援団体や外国人コミュニティによるセーフティーネット(ネットワーク)の構築が不可欠である。

## 地球市民の会からのコメント

外国人は災害時や、生活面で困ったことがあったとき、言葉の壁もあり、誰にも相談できないというケースもあります。課題は多様化、広域化する中、一つの機関や団体では解決できず、ネットワーク化を進めています。

本事業では、民間の助成金のほか、ふるさと納税や企業版ふるさと納税、地域おこし協力隊など、佐賀県らしい資金調達で進めています。様々な資金を活用しながら、国籍に限らず「誰一人取り残さない社会」をつくっていければと考えています。



長期入院の子どもと家族のための「ファミリーハウス佐賀」

### 利用者さんの声

「部屋がとてもきれいで  
良かったです。」

「素敵な部屋を利用させて  
いただき、ありがとうござい  
ました。」



企業やCSOの協力によりつくられた快適な部屋

### 協働の概要

ファミリーハウスは小児がんなどの難病治療のため、自宅から遠く離れた病院に長期入院する子どもとその家族のための滞在施設です。

佐賀県で初のファミリーハウス「ファミリーハウス佐賀」は、佐賀県提案型協働創出事業をきっかけに2018年5月、国と県の補助金と多くの方々のご支援を受け開設されました。よかことしよう会はファミリーハウスの運営を担っています。

・内装はイケア・ジャパン株式会社にご支援いただきました。イケア・ジャパンの「IKEA FAMILY 子ども募金」により積み立てた資金を元に家具などの寄贈、インテリアデザインから設置まで福岡新宮ストアのコワーカーも一体となって協力いただきました。

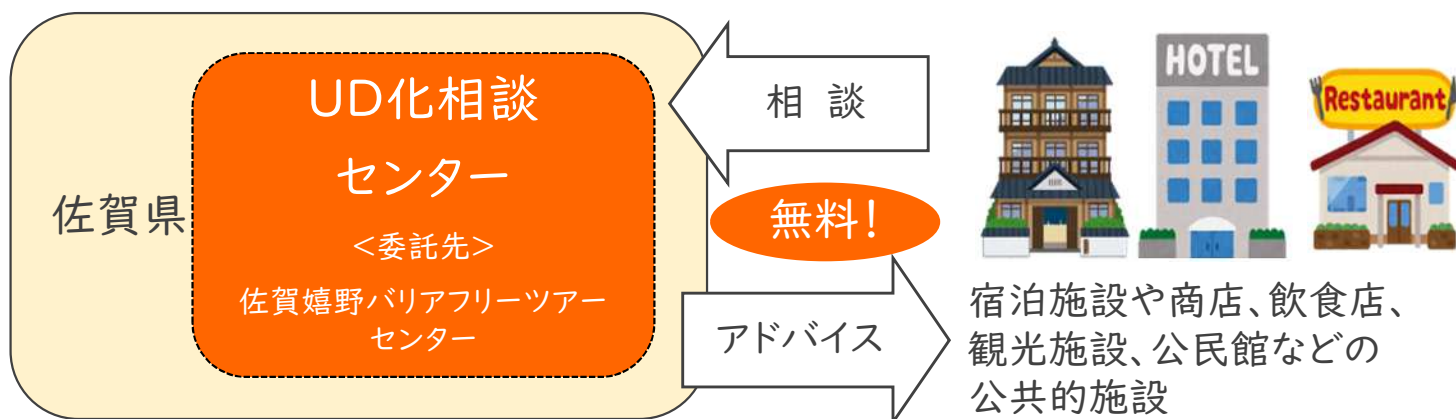
外装の塗装はMIZ溝上泰弘様のご支援をいただき、テレビ、エアコンなどの備品、ホームページ制作は、ピースウインズ・ジャパンのご支援をいただきました。

### 団体からのコメント

多くのご支援ありがとうございます。

ファミリーハウスは単なる宿泊場所ではなく、利用されるご家族の安らぎの場となるようなホスピタリティーを提供するという役割があります。

私たちは、ファミリーハウスを病気の子どもたちやご家族の支援の拠点として行きたいと考えています。



内容	備考
① 相談受付・事前相談	概要の聞取りと現地調査の日程調整
② 現地調査	施設の現状把握のため、建築士と共に調査。高齢者・障害者が同行の場合あり
③ アドバイス報告書作成	現地調査の結果から、アドバイス報告書作成
④ アドバイス内容の調整	アドバイスの方向性について、県の方向性と整合を図るため、県と調整
⑤ 施設等へのアドバイス	県との調整結果を踏まえて、施設等へアドバイス
⑥ PR活動	相談センターのPR

### 協働の概要

誰もが暮らしやすい社会の実現のため、店舗や施設等の公共的施設によるユニバーサルデザイン化を促進する。  
ユニバーサルデザイン化を希望する店舗や施設に対して、案件に適した施設改修や備品整備、人的サービス等についてアドバイスを行う無料相談窓口を設置している。

### 相談施設の声

無料で専門的アドバイスが受けられるのは、ありがたい。

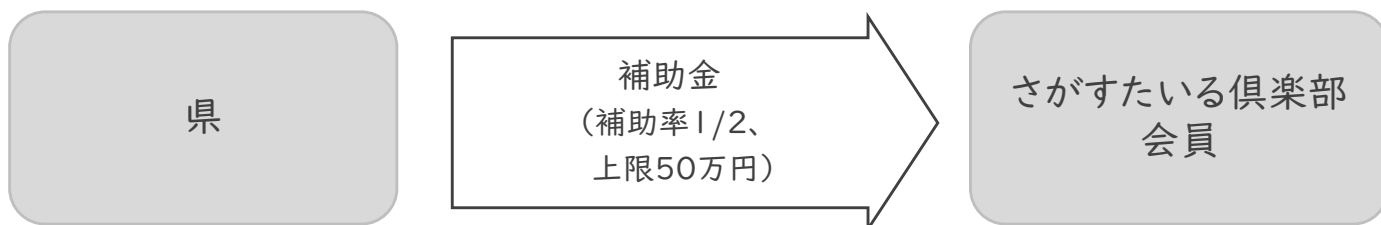
アドバイス内容を基に、改修工事にステップできた。



# バリアフリー化や子どもの受入環境整備に対する補助 さがすたいる倶楽部会員



## 条件(対象者、補助率等)



(例) 出入口・廊下の拡幅、段差解消スロープや手すりの設置、視覚障害者誘導用ブロックの敷設、身障者用駐車場の標識や塗装、トイレの拡張や多機能化(洋式化やベビーキープ等含む)、貸出用車いす、子ども用椅子や食器等  
 その他移動の円滑化や小さな子どもの受入れ環境の向上等、  
 人にやさしいまちづくりに寄与するもの

### 協働の概要

さがすたいるの想いに賛同する県内の店舗・施設「さがすたいる倶楽部」の会員を対象に、バリアフリー化や小さな子どもの受入れ環境の整備等を支援し、誰もが安心して外出できる、人にやさしいまちづくりを促進する。また、レベルアップした設備やサポート情報について、「さがすたいるウェブサイト」に掲載している。

### さがすたいる倶楽部の声

スロープ工事後に車椅子のお客様がお見えになり、入店の際とてもスムーズに移動ができ、大変助かった。



### 事業内容

小中学校等において、障がいのある方等を講師に招き、直接コミュニケーションをとりながら学ぶ出前講座

- ▶ UDの考え方、当事者理解を深めるための基礎学習（座学や当事者講話）
- ▶ 当事者体験学習（車いす、アイマスク、高齢者疑似体験など）

### 期待する効果

当事者、実体験に基づくリアルな話に触れることや自主的に学習することで、他人事ではなく、自分事として身近な友人や家族等が抱える困りごとを知ろう・解決しようとする気持ちを育む。

### 協働の概要

小学校、中学校、高校などに出向き、当事者や支援者との直接的な交流・体験等を通じ、UDについて“触れる”“考える”機会づくりとして実施している。

### 受講した学校等の声

受講した生徒から感謝の手紙をもらったり、毎年受講される学校も多く、好評いただいている。



### 事業内容

当事者を講師に招いて、店舗等のスタッフと直接コミュニケーションを取れる環境をつくる。

- ▶ 当事者理解を深めるための基礎学習（座学）
- ▶ 当事者視点を体感するための体験プログラム（車いす体験、ブラインドウォーク体験など）
- ▶ 当事者に対する接遇シュミレーション
- ▶ さがすたいる倶楽部の設備・サポートの優良事例の紹介



### 期待する効果

- ・ 店舗・施設のオーナー、スタッフの意識改革、サービスレベルの向上につなげる。
- ・ 店舗・施設に直接出向き、現場で当事者を交えた実地研修等を行うことで、より実態にあった接遇等の学びの場とする。

#### 協働の概要

店舗・施設事業者（オーナー、スタッフ等）が当事者視点に立つことで、より当事者に配慮したお店づくりを意識するとともに、スタッフのスキルアップにつながるよう、当事者と事業者が相互理解を深めることができる機会づくりとして実施している。

#### 受講者からの声

- ・ 今まで「これでいいだろう」と思っていたが、まだできることがあると感じた。
- ・ 当事者とコミュニケーションを取って、その方に合った対応を心がけたい。

まざりあう機会づくり

多様な人々が自然な形で触れ合い、一緒に時間を共有しながら、交流できる様々な形のイベント等の開催

レッツさがすたいるトーク（交流イベント）

さがすたいるフェス（民間とのコラボ等）

ユニバーサルコンサート（佐賀さいこうフェス連携企画）



< レッツさがすたいるトーク >



< さがすたいるフェス >



< さがすたいるコンサート >



< サポートボランティア >

協働の概要

多様な人々が自然な形で触れ合い、一緒に時間を共有しながら、交流できる様々な形のイベント等の開催することで、お互いの特性・個性を理解して、相互理解を深めている。

また、会場全体にわたって、高校生を中心とするサポートボランティアを配置する等、心地よく過ごせる会場づくりの工夫を行い、多様な人々が一緒に時間を過ごし、楽しんでいただけるように取り組んでいる。

参加者の声

- ・同じ想いもあり、学べる想いもあり、改めて心に響いた。
- ・同時字幕や、手話通訳があり、非常に分かりやすかった。
- ・事前に子連れでも来場できることがチラシ等から分かったので安心して来場できた。
- ・ボランティアのサポートがあったので、会場内のグルメも楽しむことができた。

# 佐賀県から1型糖尿病根絶に向けて！

## 認定特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク



1型糖尿病は、毎日4回以上の注射を打たなければ数日で死に至る不治の難病です

日本IDDMネットワークは、不治の病である1型糖尿病の根絶（＝治療＋根治＋予防）をゴールに掲げ、患者・家族へのサポートや研究への支援等を行っています。

### バイオ人工膵島移植プロジェクト

1型糖尿病根治に向けた「バイオ人工膵島移植プロジェクト」



私は、2004年に日本でヒトからヒトへの膵島移植1例目を実施し、膵島移植によって患者さんがインスリン注射からの離脱ができることを体験しました。膵島移植には、ドナーの不足と免疫抑制剤を一生飲み続けるという2つの課題があります。この課題を一度に解決するのが、医療用ブタの膵島を免疫隔離膜で包んで移植するバイオ人工膵島移植です。バイオ人工膵島移植はすでに海外で実施されています。医療用ブタを使った治療は、2022年1月、米国で心臓移植が行われ注目を浴びましたが、日本では知名度が低く研究費が得られない分野です。



国立国際医療研究センター研究所  
膵島移植企業連携プロジェクト  
研究アドバイザー  
神戸大学客員教授  
松本 慎一 先生

佐賀県のふるさと納税のおかげでなんとか研究が続けられており、2025年までに日本でも実施できるめどが立っています。これからもご協力をよろしくお願いします。

### 1型糖尿病が治ったら

かほちゃん(患者 7歳)  
「おもいっきり遊園地」



遊園地で、低血糖を気にしないで、糖質がよくわからないトッピングが沢山かかったアイスクリームを食べたり、並んでる間にポップコーンを食べたり、屋台で買ったお菓子を食べ歩きしたり、食事の時間も気にしないで、夜遅くなくても補食しないでおもいっきり遊びたい。

観覧車に乗って、お城も行って、ジェットコースターでお月様まで行っちゃうの。

そして、疲れたら血糖値も測らなくてぐっすり寝たいだけ寝て、朝はバイキングで食べたいだけ美味しい物を食べまくりたい。

みんなみたく、私も血糖値を気にしないで生活したい。

### ウイルス糖尿病予防ワクチン開発プロジェクト



(左) 永淵先生 (右) 兒玉浩明佐賀大学学長

皆様のこれまでの大きなご支援のおかげで、糖尿病を起こすウイルスを見つけるためのモデルマウスを造ることに成功しました。心から感謝申し上げます。

さらに工夫を重ね、糖尿病の原因となるウイルス候補株が糖尿病を起こすかどうかを見定める研究を着実に進めます。

佐賀大学医学部 腫瘍・糖尿病・内分泌内科 特任教授  
永淵 正法 先生

### 日本IDDMネットワークからのメッセージ

ふるさと納税のおかげで、1型糖尿病根絶を目指す研究へ4億円を超える支援を行うことができました。また、ガバメントクラウドファンディング（GCF）をきっかけに1型糖尿病を知ってくださる方も飛躍的に増えました。このようなCSO支援の仕組みを続けてくださる佐賀県庁に心より感謝申し上げます。佐賀から1型糖尿病根絶の世界標準を作り上げるべく全力を尽くします。

### 患者家族の声

6歳の娘が昨年、1型糖尿病を発症しました。「治してあげたい！」親としてはその思いだけです。

治るといふ希望をくださりありがとうございます。

いつか治るかもしれないという希望を胸に、娘と日々頑張っています。



# 伝統工芸事業者支援でつくり手とつかい手をつなぐ 認定NPO法人ピースウィンズ・ジャパン



助成事業（登り窯の修善費用を助成金で充当、唐津焼川上清美陶房の視察）

## 支援対象者の声

助成金を利用し、登り窯の修復を行いました。

登り窯の痛みが激しい箇所を修復を専門家に依頼することができました。

今後もこの登り窯で、薪による焼成でしか出し得ない焼き物の魅力を引き出したいと思っています。

唐津焼／川上清美さん



商品開発（唐津焼鏡山窯の井上公之さん、デザイナー澄川伸一氏との打ち合わせ）



新規販路開拓（SAGAMADOにて期間限定のポップアップショップ開催）

## 協働の概要

- ・伝統工芸事業者  
ふるさと納税分析結果の情報共有と返礼品セレクト
- ・外部デザイナー  
伝統工芸事業者とマッチングし、新商品を共同開発
- ・SAGA MADO  
伝統工芸品展示販売
- ・オンラインショップ  
上質な佐賀の伝統工芸品のみを扱う

## 団体等からのコメント

返礼品はすべて佐賀の伝統工芸品で、伝統工芸支援の大きな柱になっています。

いただいた寄付は助成事業、商品開発などの支援策に活用。これからも佐賀の伝統工芸振興に努めます。



小学生販売体験(キッズマーケット)

### 参加児童の声

- ・仕事に関心を持って、前向きになりました
- ・自分1人だけが頑張るのではなく、みんなが力をあわせてこそそのキッズマーケットだという事がわかったようです
- ・普段、学校生活の事を自分からあまり話さないけれども、キッズマーケットの取組みについては、自分からよく話してくれました



佐賀さいこう!企画甲子園  
高校生の佐賀の魅力アップ企画発表



### 協働の概要

- ・あらゆる世代に対して主体的・対話的な深い学びの環境づくり
- ・小・中・高等学校:販売体験活動(キッズマーケット・脊振中販売体験・きゃーもん祭)
- ・小中学生:企画立案製造・制作活動(キッズアカデミー)
- ・高校生:企画立案活動(企画甲子園)
- ・大学生:企画立案制作活動(がばいベンチャー)
- ・大学生・社会人:起業家教育の醸成(ビジネススクール鳳雛塾)
- ・産学官連携

### 団体等からのコメント

私たちのパーパスは人材育成を通して地域を活性化することです。ミッションとして、自ら考え、学び、行動する人財/起業家精神を持つ人財を育成し、誰もがチャレンジでき、互いに応援できる地域の未来の創造することを掲げています。

社会人を対象としたビジネススクールからスタートした活動が小学生から大学生/社会人に至るあらゆる世代に広がっています。

この取り組みは行政、産業界、CSO間の協働の風土がある佐賀だからこそ継続発展しているものだと感じています。



# 一人ひとりがおもしろい未来を描ける社会を目指して

## 特定非営利活動法人灯す屋

### -うちやま百貨店-

佐賀県有田町内山地区の歴史あるまちなみを歩きながら、お買い物を楽しめるイベントを開催しています。日々おもしろいことを研究している多様なクリエイターが出店者として集い、それぞれの想いや考えを形にしてお披露目できる機会を提供しています。出店場所として空き店舗を活用したり、実店舗を間借りしています。訪れるお客さんもあたらしい考えやものに出会うことで、おもしろい未来を描ききっかけを得られると考えています。



### 協働の概要



近隣店舗：出店場所の提供や広報協力



町内外の事業者：イベントへの出店



大学生：インターンとしてイベント企画運営

### その他

- 不動産業者：空き物件活用希望者の相談サポート
- 空き物件所有者：売却・貸出可能な空き物件の提供
- 観光協会や商工会議所など他団体：当日運営のサポートや広報協力
- デザイナー：ポスターやフライヤーなどの広報物制作、インターンの制作サポート
- カメラマン：開催当日の写真撮影

### 団体等からのコメント

私たち灯す屋は、一人ひとりがおもしろい未来を描ける社会を目指して、そっと背中をおすような場や機会を提供しています。事業者の方々の相談（例：空き店舗への出店相談等）を受け、専門家と協力しながら相談者がおもしろい未来を描けるように様々な支援しています。私たちの活動には地域の皆さんの協力と応援で成り立っています。だから私たちも地域の皆さんに恩返ししたい。そんな思いからふるさと寄付金も地域の皆さんと一緒に取り組んでいます。



玄海灘の豊かな海と漁業を後世に！  
特定非営利活動法人浜一街交流ネット唐津



玄海水産業を  
活性化するため、  
関係者一丸となって  
取り組んでいます。

東宝丸 井上 健一さん



親子料理教室



水産物販売会

協働の概要

- ・玄海地区水産業の情報発信
- ・料理教室や漁業体験を通じた漁業者と消費者との交流
- ・漁業者の水産物販売などの6次化支援
- ・藻場再生や海洋プラゴミ回収などの漁場環境保全

団体等からのコメント

・豊かな玄界灘を守るための活動に取り組むとともに、浜(漁村)と街(消費者)との交流を通じて水産業の活性化を図ります。

特定非営利活動法人 浜一街交流ネット唐津  
代表理事 千々波行典

・水産物消費拡大のための料理教室や体験漁業など、NPO法人 浜一街交流ネット唐津が有するノウハウを活用した協働により、玄界地区の水産業活性化を図っています。

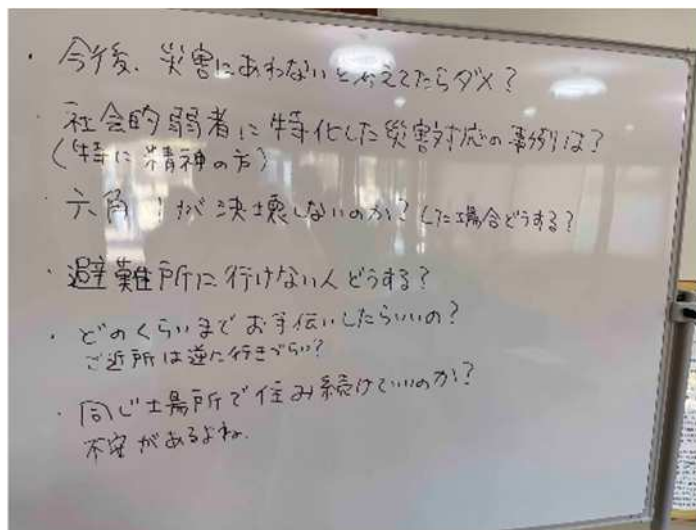
唐津水産加工団地協同組合  
理事 吉村 司



令和4年度誘致CSOとの交流会

参加者の声

- ・Civic Forceさんの海外での取り組みから日本の支援を見る視点や、おもやいさんの地域での取り組み、参加された様々な立場の方の視点から災害を考えることができました。
- ・直接災害ボランティアに参加する機会が少ないので役に立った。



グループディスカッションで出た災害時における課題



ゲストスピーカーの(公社)Civic Force 代表理事 根木佳織氏

協働の概要

【一般社団法人おもやい】

- ・交流会開催のための企画、準備(ゲストスピーカーの選定、事前打ち合わせ、広報、参加者の受付等)
- ・交流会の実施(司会進行、ゲストスピーカーとのクロストーク等)

【公益社団法人Civic Force】

- ・災害時に必要となる被災者への支援や行政やCSOとの連携について講演
- ・ディスカッションにより出た災害時における課題への回答

団体からのコメント

【(一社)おもやい 代表理事 鈴木 隆太氏】  
令和3年から本事業を実施させていただいておりますが、こうした事業を通じて様々なCSOや行政の方々との接点生まれ、そこから他団体とのコラボをするきっかけとなりました。

【公益社団法人Civic Force 代表理事 根木 佳織氏】

おもやいさんとは災害時にも備える活動においても、情報共有と連携しています。お互いの得意な分野を持ち寄ることで相乗効果を生み、より住民の方へのご支援や多くの関係者を巻き込む力になっていると思います。

# 入院中のお子さんに付き添うご家族にお弁当を！

## 特定非営利活動法人キープ・ママ・スマイリング



季節感のあるお弁当は作り手からの応援メッセージを添えています。

お子様の長期入院に付き添うご家族に元気を届けます。



県内生産者からの食材のご寄付を大切に使っています。

心を込めて一品ずつ調製し、学生によって病院へ運ばれます。

### 協働の概要

- ・佐賀大学医学部附属病院  
…患者ご家族との橋渡し
- ・(株)ディアーズ・ブレイン  
…結婚式場シェフによるお弁当提供
- ・地元生産者…食材の提供
- ・任意団体ノギ(大学生)  
…生産者の寄附受付、お弁当の配達

### 支援対象者の声

美味しいものを食べて親も健やかであるって大事だし、それを応援してくださる団体があることすごくうれしいです！地元の人達の優しさが詰まったお弁当 とても美味しかったです。

お弁当をあけた瞬間 疲れがぶっとぶかのように彩りがきれいで すごく驚きました。ほぼコンビニ弁当を食べてるので こんな豪華なお弁当を食べられて すごくうれしい気持ちになり、また頑張ろうと思うこともできました。

入院中は子どものことであらばいい、自分の事は後回しの生活をしているので、久しぶりにテンションが上がりました。お腹いっぱい気持ちも満たされました。

## 「お弁当deスマイリングin佐賀大学病院」の仕組み



### 団体等からのコメント

#### ●NPO法人キープ・ママ・スマイリング

私たちは、子どもの入院中の付き添い生活の中で最も難渋する食支援に取り組んでいます。スペシャルランチを届けることで闘病生活の励みにしてもらえることも目指します。さらに、病気の子どもは治療を終えると、地域に戻っていきます。その際、病気、あるいは後遺症を抱えたまま、暮らすことも少なくありません。自宅に戻っても安心して暮らし続けるためには、地域の理解と支えが必要です。私たちの地域を巻き込んだ取り組みがその第一歩となることを願っています。

#### ●株式会社ディアーズ・ブレイン

私たちは、入院中のお子さまやそのご家族が置かれている状況を初めて知り、弊社が展開するSDGsやCSR活動における理念と本プロジェクトの活動内容が一致することから参画しました。お弁当を提供したご家族から「美味しかった」「元気になった」などの感想を頂戴すると、微力ながらお子さまの入院に付き添っているご家族のサポートができていることを、スタッフ一同、大変嬉しく思っております。この活動を通して改めて実情に触れ、気づき、考えたことを活かし、今後もさまざまなカタチで家族に笑顔を届ける活動に取り組んでまいります。

#### ●任意団体ノギ(大学生)

共同代表者が佐賀出身という強みを生かし、地域支援者の輪を広げることに貢献したいと参画しました。地元の生産者さんの寄付受け付け窓口やお弁当を病院に届ける役割を中心に担っていますが、このような三者協働の活動の機会をいただき、とても嬉しく思います。3者の得意な分野をそれぞれに出し合い、win-winのプロジェクトにできれば、さらに可能性が広がり、参加者も増え、よりよい社会に近づいていくのではないかと考えています。



## 知ることから始める国際支援の一步

認定NPO法人難民を助ける会 AAR Japan



### 春日北小学校(小6)

私も将来は人を助ける職業に就きたいと思っています。自分たちでもどんなことができるかちょっと考えてみたいと思います。

### 協働の概要 <佐賀市立春日北小学校>

佐賀県人権・同和教育研究協議会所属である春日北小学校の先生から平和学習の一環での講演についてお声がけいただいた。

コロナの影響で残念ながら放送室からの配信となったが、小学生全校児童に対してどういったアプローチをしたら伝わるかを事前に先生と一緒に検討し行った講演に、集中して聞き入る子どもたちの姿が印象的だった。児童からは世界にある諸問題に対して、自分ごととしてとらえる前向きな感想が寄せられた。



### 佐賀北高等学校(高3)

難民について知ることがまず自分たちにできることだと実感しました。

### 協働の概要 <佐賀県立佐賀北高等学校>

佐賀北高校生徒会の皆さんが文化祭にて「全校生徒に向けてウクライナ人道危機の現状やその支援活動について発表したい」ということで事前にインタビューを受けた。

実際に文化祭にて生徒会の皆さんがインタビューをもとに発表・展示・募金活動を、当会はチャリティーグッズの販売会を行った。

生徒の皆さんが自発的に佐賀へ避難された方へのインタビューや、AARへの取材など、「できることを」と自ら行動に移していることが素晴らしく、そういった活動に寄り添い、社会課題の解決へと結びつけるお手伝いを今後も続けていきたい。



### イベント参加者 一般 60代

現地で活動に関わっている方の生の声が聞けて、大変参考になりました。世界のいろんなところで今起こっていることに敏感でありたいと思います。

### 主催したUNICEF協会さんより

現地で現在進行形で活動を行うスタッフからの発信ということで、参加者にはよりリアルな現状を伝えることができ良い会となりました。



### 協働の概要 <佐賀県UNICEF協会>

佐賀県UNICEF協会よりシリアについての映画上映と合わせ現地の様子を伝えてほしいとのご依頼。ウクライナの隣国モルドバで支援活動をする中、オンラインで、映画に関連するシリアの状況や当会の活動内容と合わせ、ウクライナ避難民に対する支援活動についてもお伝えした。

他団体との協働により、できることも増え、より多くの人に活動を知っていただく機会ともなるので今後も積極的にいろいろな団体とつながっていききたい。

## 基山町の「まち・ひと・しごと」をつなげる場に 基山フューチャーセンターラボ



全国から注文が相次ぐMarikoK  
(基山フューチャーセンターラボ内)

PopUp Storeからスタートして4周年を迎えることができました。ふるさとの地で起業して、たくさんのお客様に恵まれたのも、この場があったからこそだと感謝しています。

オーダーメイドの靴 MarikoK  
加藤 真理子 さん



JR基山駅前の元酒蔵跡をリノベーション



基山フューチャーセンターラボで開催する「まちゼミ」の様子

### 協働の概要

基山フューチャーセンターラボ:

- ・著名人を招き、学びの場をつくるまちゼミの開催
- ・東明館高校サイエンス部と共同でパンの制作
- ・基山町産無農薬無化学肥料の小麦粉を生産委託
- ・POPUP Storeなど起業へ向けての第一歩を支援

### 団体等からのコメント

JR駅前一等地のシャッターが閉まって4年。「学びの場」を作りたいと町民有志が立ち上がって生まれた場所。

運営を継続するためにふるさと納税は欠かせない収入源。若い人財が集い、主体的に取り組んでいく姿は協働のあるべき姿。

これからはもっと求められるサードプレイスであり続けたい。

基山フューチャーセンターラボ



私たちにとっては初めてとなる魅力化の取り組みであるため、具体的なアドバイスをいただいたり、協議内容のフィードバックをいただいたりして、とても助かっています。

また、探究のカリキュラム開発においても助言していただいております。多面でサポートいただいております。今後も、このような協働を続けていきたいと考えています。

唐津西高校 山口先生



### 協働の概要

・学校魅力化アドバイザーとして佐賀県教育委員会と協働で県内高等学校を伴走支援  
→高校魅力化を通じて、地域社会に貢献できる人材を輩出することをも目的とした“唯一無二の誇り高き学校づくりプロジェクト”を推進

・「地域みらい留学事業」の推進  
→都道府県の枠を越えて地域の高校へ進学する新たな高校進学の実践「地域みらい留学」に有田工業高校が参画。全国の中学生・保護者に有田工業高校で学ぶ魅力を発信する機会として地域みらい留学合同学校説明会を企画・運営

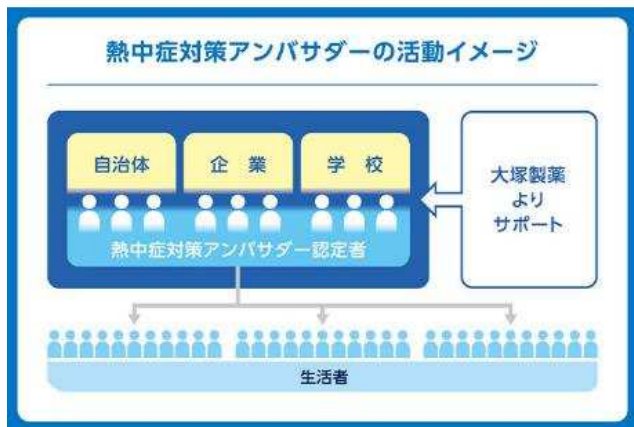
### 団体等からのコメント

県立高校の魅力化を高めるため、SAGAコラボレーション・スクール指定校9校へ毎月訪問し、情報提供やアドバイスなどを行っていただいております。

各学校の相談にも丁寧に対応していただき、大変頼りになる存在です。

【県教育振興課】

# 熱中症対策 アンバサダー講座



大塚製薬株式会社が自治体・学校・企業等の組織・団体を対象に開催。熱中症対策の啓発・普及活動をおこなう際に必要な専門知識を学ぶことができます。県内の全郵便局長が受講され、「熱中症対策アンバサダー」として認定を受け、郵便局窓口に来局された方への情報提供や、暑い時季の地域活動時などに地域住民の方へのサポートをしています。

【きっかけ】

連携協定の締結により、「協働」の枠組みができました！



<健康増進に関する佐賀県と大塚製薬株式会社との連携協定締結式(2015年2月5日)>

協働の概要

日本郵便株式会社

- ・県内郵便局長への講座の周知
- ・県内全郵便局長が熱中症対策アンバサダー講座を受講
- ・地域における熱中症対策への更なる協力

大塚製薬株式会社

- ・熱中症対策アンバサダー講座の開催

佐賀県

- ・日本郵便株式会社へ講座の受講を依頼

団体等からのコメント

【日本郵便株式会社 九州支社】

熱中症対策アンバサダー講座で学んだ知識は、暑い中來局いただく多くの地域住民の方々との何気ない会話の中で熱中症への注意喚起が出来て、お客さまにも非常に喜んでいただいています。

また学校部活動の場などで指導者やアシスタントをしている局長も多く、そのような社会体育活動の場面でも大いに役立っています。

【大塚製薬株式会社】

熱中症の発生を防ぐためには、個々で気を付けていくことはもちろんですが、正しい知識をもって熱中症対策を行うことができるよう、多くの方々に呼びかけていくことも必要です。今回、佐賀県のご協力のもと県内の日本郵便株式会社全局長様に熱中症対策アンバサダー講座を受講いただき知識を習得され来局される生活者の皆様へお声掛けや熱中症対策についてのアドバイス等を担って頂きました。今後、今回の取組をモデルケースに官民一体の熱中症対策啓発に繋がればと思っております。